

令和3年4月23日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時30分
- 2 閉会時間 10時50分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 渡辺 優子
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	渡辺 優子
○	教育委員	野谷 悦
○	教育委員	岡野 敏彦
○	教育委員	山内 みどり

- 6 出席者氏名
- | | |
|--------------|-------|
| 教育部長 | 黒石 徳子 |
| 教育総務課長 | 下條 博史 |
| 生涯学習課長 | 釧持 直人 |
| 教育総務課長代理 | 田中 明夫 |
| 教育総務課教育総務班長 | 大木 健司 |
| 教育総務課教育総務班主査 | 添田 理代 |
- 7 傍聴者 4名
- 8 調製者 教育総務課教育総務班主査 添田 理代

1 開会宣言

(教育長) 令和3年度4月定例教育委員会議を開催します。
職員紹介を行う。

2 署名委員の氏名

渡辺委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。
(教育部長) 4月政策会議報告を資料に基づいて行う
(各課長) 各課の事務報告・事業予定について資料に基づいて説明する。

○(山内委員) ラディアン・ピアノマラソンコンサートの件について先月の会議でも申し上げましたが、素早く対応いただいたことにとっても感謝しています。3月当初に中止になった時は、とても人気なイベントであるため、みんな大変がっかりしたと思います。ただ、1カ月以内という短い期間で、感染対策をしっかりと講じたうえで分散開催していただいたこと、また1組20分もの演奏時間をいただいたこと、出しそびれた人もいたと耳にしましたが、適切な素早い対応にとっても感謝します。

もう一点は、小中一貫教育校関連の説明について、私たちの見えない所で、清水先生と吉新先生を中心に、現場の先生たちとの意見交換も踏まえ、小中一貫の準備を着実に進めてくださっている様子がよく伝わってきて良いと思いました。一つ分からなかったのが、先程の説明の中であった「コーディネーター」とは、例えばコミュニティ・スクールのような外部の方を指すのか、それとも学校の先生を指すのか、詳しく教えていただいてよろしいでしょうか。

○(教育総務課長) コーディネーターは学校の先生にやっていただくということになります。主なコーディネーター機能としては、中学校と小学校の先生がそれぞれの学校に行って講師をする交流体験を行う際の当該校同士の調整になります。これまで指導主事が管理職と調整していたのですが、情報の齟齬が生じることもあるため、やはり学校にもしっかりコーディネートする方を配置する必要があるためです。

○(山内委員) 各学校に1人ずつで、5名配置したということですか。

○(教育総務課長) そのとおりです。

○(教育長) 補足になりますが、今回、各学校で2回又は3回の研究発表と授業公開を全職員にするように指示が出ています。吉新先生については、当日の発表会だけではなく、そこに至る過程でも各学校へこまめな指導をしていただけるため、そういった場面でのコーディネートの役割もあります。また、コーディネーターとは別に研究主任を配置しているところもありますので、学校によっては複数で今回の研究に当たっている状況です。

4 付議事項

(1) 議案第1号 学校運営協議会委員の委嘱について

(教育総務課長) 学校運営協議会委員の委嘱について資料に基づいて説明

意見等なし

(教育長) 委員に議案第1号について諮る。

委員全員賛成により、議案第1号は承認される。

(2) 議案第2号 教育支援委員会委員の委嘱について

(教育総務課長) 教育支援委員会委員の委嘱について資料に基づいて説明

意見等なし

(教育長) 委員に議案第2号について諮る。

委員全員賛成により、議案第2号は承認される。

5 報告・協議事項

(1) 教職員の綱紀粛正について

(教育長) 教職員の綱紀粛正について資料に基づいて説明。

○(教育長) 二宮町町内におきましては、特段わいせつ事案や盗撮等といったことは起こっておりませんのでご安心いただきたいと思います。スクールわいせつ、セクハラはちょっとした誤解で生じる可能性もありますので、常に気持ちを引き締めて子ども達に接することを指導しております。

(2) 二宮町英語検定奨励金交付要綱の一部を改正する要綱について

(教育総務課長) 二宮町英語検定奨励金交付要綱の一部を改正する要綱について資料に基づいて説明。

○(教育長) 今年、二宮町では英語教育に関して、ICTの有効活用ということで、国からの資金援助等を受けてデジタル教科書を全校で入れることができました。他の市町では全学校にデジタル教科書が入れられる訳ではなく、二宮町は特別に措置していただいた形になります。今後、それらを活用して子ども達の英語教育の底上げをしていこうと考えています。担当者会の中では、ALTと英語専科に頼りすぎないで、学級担任も英語教育

にしっかりと携わるようにとお話させていただきました。他市町では、英語専科に任せきりで、担任が教室から離れてしまうという状況があるようです。二宮町ではそんなことがないように、学級担任が責任を持って子どもの英語の成績がつけられるシステムを構築していきたいということで、お話をさせていただきました。今後も二宮町の英語の底上げをさらに頑張っていきたいと思います。

(3) 一色小学校単級への対応について

(教育長) 一色小学校単級への対応について説明。

- (岡野委員) 一色小学校の単級化解消のためには、少なくとも1学年2クラス以上が必要です。「35人学級」という観点から35人という数字を一つの基準に考えました。36人の子ども達を集めるためには、毎年自然減少していく推計人数に、さらに追加した人数(+ α)を確保する必要があります。試算すると、2022年度から8人、11人、5人、20人、20人、29人…と毎年+ α の人数が必要になります。課題として、その人数をどれくらい、どこから集められるかがあると思います。山西小学校区から募ることが予想されますが、そうすると今度は山西小学校の人数減が早まることにも繋がります。学区選択制とはいえ、単級化解消のために子ども達の人数で対策するのは厳しいのかなというのが、数字を見て直感的に感じました。

単級化による弊害は、先生方の多忙化が背中合わせに課題としてあります。解消するためには、「仕事量と同じなら人数を増やす」、「人数が同じだったら仕事量を減らす」のどちらかしか選択肢がおそらくないのかなと思います。「先生の人数を増やす」ことは、やはり人件費等の視点からみて、町の行政として経済的なハードルがあります。「仕事量を減らす」場合には、運動会や遠足等のイベントを隣の学校と共同で実施したり、ICTを最大限に活用したりするなど、学校間で分担して出来ることは積極的に取り入れ、これまでと違うアイデアを盛り込む必要もあるのかなと感じました。

- (教育長) 先生の仕事量の改善についてご意見をいただきました。ありがとうございます。他に何かございますか。
- (野谷委員) 単級化を人数的に解消するのは岡野委員の話のとおり、やはり無理だと思います。各学年10人を超える人数を集めること、またそれに伴う山西小学校への影響といった問題を抱えているため、単級化をすぐに解消するのは無理だろうと考えます。将来的には学校の統廃合の中で解消する必要があるため、その意味でも小中一貫の構想を早急に進めていかなければならないとも思っています。

人間関係の硬直化を防ぐという目的のための学校選択制については、実際のどの程度の需要があるのかは疑問もありますが、学校を変えることで新たな気持ちになる子ども達がいるかもしれないので賛成かなと思います。6年生が中学を自由選択して進学することも、そういう意味で基本的には賛成ですが問題もあります。二宮西中学校の令和2年度

の2年生の生徒数は80人で、仮にその中で少しでも二宮中学校に入ると、西中学校は2学級になってしまいます。そうすると、かねてから申し上げている教員定数の減が問題となり、中学校の特性である専科教員が少なくなるという制度的な危惧が考えられます。そういう意味で、中学校の自由選択制は難しい問題がはらんでいると思います。

単級の解消が無理でも、一色小学校でより良い教育を行うという視点で考えた場合、「先生の人数を増やす」と「仕事を減らす」の2つ方策が考えられますが、私はともかく人数を充実させてほしいというのが意見です。二宮町教育委員会の努力によりインクルーシブの校内支援の非常勤や学級経営支援の非常勤等を配置していますが、焼け石に水のような状況です。空き時間のない状態で、全教科の予習、授業、テストやその評価を先生方は行うこととなります。そういう状況では、新しい教育や新構想など柔軟な学習を展開することもなかなか考えにくいです。また、外に出るにも担任だけでは出られないのですが、対応するにも管理職くらいしかいません。やはり第一に一色小学校支援のためのマンパワーを町独自にお願いしたいと思います。「仕事を減らす」ことは、長期的にやっていく必要があると思います。学校が安定してくれば先生方も少し楽になります。また、教材を集め活用できる状態にすることは、取り組むべきことではありますがなかなか難しい状況であり、先生方に支援するため、また子ども達の教育をより充実させるためには、マンパワーの充実をお願いしたいと思います。最近、地域学校協働活動推進員、特に一色小学校においては貴重な人材を得たと考えており、学校への提案等、積極的に活動していただくととても助かると聞いています。さらに学校側のマンパワーの充実のためにも、学校側の受け皿として、学習活動コーディネーターを配置することで、外部とのコネクション等がよりスムーズになり、さらに一色小学校の教育環境が上がるのではないかと考えています。

- （教育長） 教員の仕事を減らす、或いは教員を増やすといった視点からお話をいただきました。ありがとうございました。
- （渡辺委員） 小中一貫教育は、これまでの取り組みの一つの実績として、授業改善等のソフト面が少しずつ実績に繋がっていることも聞いており、そこは非常に期待しています。一方で、ハード面はもう少し時間を掛けて丁寧に決めていく必要性を感じている中で、一色小学校の単級への対応は様々な課題があるということも聞いています。

単級のメリットとデメリットは様々あると思いますが、子ども目線でみて、1つのクラスが安定したクラスであることが重要です。例えば、仲が良くまとまったクラスであれば、6年間順調に進む可能性もあるかもしれません。ただ、少しまとまりがなく、支援が必要な子どもがいる等の場合には、クラス替えをして子ども達の環境を変えることで、少し状況を変えてあげることができます。一色小学校ではそういった手立てが出来ないことが、子ども側から見た一つの大きな課題だと思います。

弊害のもう一つは先生方の多忙化です。先生方が多忙であるためクラスを支えるだけでいっぱいになってしまうこと、またそれらの余波が全て管理職の教頭先生や校長先生

に掛かっているということも聞きます。35人、40人学級を1人の先生が全て見るということの弊害は本当に大きいと思っています。

この2つを解消するためには、皆さんがおっしゃるとおり、先生の人数を増やすことが一つの大きな手立てにはなると思っています。現在、可能な限り一色小学校に支援員を厚く配置していることも聞いてはいますが、それでもやはり根本的には足りないのではないかと考えています。去年からの会議や勉強会でも、一色小を複数学級にする話も出てきたと思います。定員が35人に満たなくても2クラスにするなど、本当にそれくらいのことを出来ればしてほしいとは思っています。複数学級になることで、先生の作業分担やクラス替えによる環境改善ができることなどが考えられます。今すぐ考えられる手立てとしては、人の手を入れて支援するしかないのではないかと考えています。

一方で、学区の弾力化の問題があります。例えば、山西小学校でも中里の北部は一色小学校に近く、二宮小学校も梅沢の西部は山西小学校に近いというような状況があります。隣接地域の学区を少し緩めることが出来るなら直ぐにでもやった方がいいと思いますが、どれほどの人の移動があるのか、児童数が転換していく中でどこまで効果があるのかは、私の中では見えていない部分があります。

また、例えば、環境が良い等の学校の特色を見せることで、近くの小学校でなく離れた学校を選択することも考えられるので、上手くいけば二宮の魅力に繋がると思っています。ただ、それには通学手段の問題があります。山西小と一色小の学区の柔軟化は非常に大事ですが、例えば、百合が丘に住んでいるお子さんを、バスで駅前の二宮小学校に通わせる選択肢を希望されることも考えられます。ただ、二宮小学校の教室の状況等を考えると、児童数が増えることが困る実情もあると思います。それらの点を踏まえると、学区の選択制は、一つ一つ丁寧に検討する必要があるためすごく時間がかかる気がします。町の財政状況から先生の増員をすることが難しいとは承知していますが、一色小学校へ出来る手立てをすぐにでも講じる必要があるのではないかと考えています。

- (山内委員)　そもそも単級を解消しなくてはいけないのかというところまで、考え直してみたら良いのかなと思います。以前、一色小学校の授業参観の時に、校長先生から、中学校に行った時に初めてクラス替えを経験して、ストレスを感じる子がいるという話を聞きました。クラス替えがないことによる弊害もあることも聞いています。しかし、30人以内の少ない人数の中で手厚く配慮の行き届いた授業が行なわれるという意味も含め、単級解消に捉らわれる必要があるのかなのかを、今一度考え直してみたら良いと思います。

去年中学校の教科書採択の際に歴史の教科書を何冊も読んだのですが、十字軍の遠征の後にルネサンスが花咲いたように、このコロナの時代の後、文化芸術が花咲くと思っています。この機会に、教育においても私達の考え方の転換をした方がいいのかなと思います。二宮町にとって、二宮町の子ども達にとって、どういう教育が本当に必要かということを考えていくのが教育委員会議の役割だと思います。小中一貫では、7歳から15歳ま

での子どもが同じ校内にいて、それぞれの姿を見てともに育っていける環境がより良い町の教育につながるということで進めています。そのプロセスでは、各学校の児童数の増減等の数字が出てきますが、大きい目標を見た時にそれらの状況をデメリットとみるか、メリットとみるかは、見方次第では随分と違ってくると思います。人口減少は避けられないため、将来的には町内に1つの小学校と1つの中学校になっていくこととなります。再度目指す方向を確認し、新しい発想を踏まえ単級化を検討する必要があると思います。規模は小さいものの先生と密で仲良い友達と6年間安心して自然に包まれて暮らせることが、一色小学校の魅力というのは歴然としていると思います。そういう単級の特色を生かしていけたらどうかなと思います。「# (ハッシュタグ) 教師のバトン」等で取り上げられているように、どこの現場の先生も多忙であるという問題はもちろんあると思いますし、一色小学校でも同様な状況であると思います。ただ、先ほど岡野委員の話のとおり、山西小学校とタッグを組む等の工夫をしながら、一色小学校としての魅力を発信していくことも考えられます。私の将来像としては、学区ではなく、各学校の特色を選んで行きたい学校に行けるようになるいいなと思っています。登校班や学区等といった既存の概念は、少しずつ崩していければと思います。例えば、コロナの影響に伴い、この1年で、学校でのタブレットの使用やオンライン会議なども当たり前になりました。このような状況を考えると、ちょっと発想の転換を試みたらどうかなと思うわけです。ただ、今の小学生にとっては遠い将来のことを語ってられないので、中学校の自由選択性や学区の弾力化などが可能になれば、町の特色や魅力になるのではないかと思います。

- (教育長) ありがとうございます。各委員から複数学級にするために子どもを集めることの課題や山西小学校への影響等についてご意見をいただきました。単級で少人数の良さがある中で中途半端に人数を増やすことで生じる先生方への負荷などを考えると、逆効果だと感じました。単純に子どもが増えれば学級が増えるという発想から、隣接地域から子ども達を集めることを提案しましたが、委員の意見を総じてみると、一番目の提案については即効性のあるものではないということが見えてきました。

二番目についても同様だと思います。隣接区域の学区の弾力化については、それほどメリットがないのかなという印象です。ありがとうございました。

また、三つ目については、まだまだ検討していく余地があると思います。ただ、一色の方から二宮中に通いたいという子どももいるといった意見もあるので、その点ももう少し検討していきたいと思います。委員すべてに共通して、先生方の多忙化に対応するために、先生の数を増やしてほしいと意見がありましたが、予算の確保も含め検討していく必要があるのかなと感じました。

- (岡野委員) 複数の学級をつくるという意味でみると、先ほどの35人という数に縛られる必要もないのかなと感じます。あえて15人や20人以下のクラスで上限を決めて、要は少人数学級という特色を際立たせる選択肢もあるのかなと思います。そうなった場合は、その良さをキープしていくために「定員制」が考えられますが、定員数を超えた場

合にどうするかも考えなくてはなりません。やはり2クラス以上にするのが好ましいのでしょうけど、そのためには「人数を集めるか」又は「細かく小さい人数で分ける」ということになると思います。単級については、それぞれのパターンでどういうシナリオが描けるかというのを想定して、考えていくことが必要なのかなと感じます。先ほど山内委員がおっしゃったように、単級は解消しなくてはならない本質的な課題かどうかについては、捉え方によって色々メリット・デメリットも変わるので、やはりその辺りをもう一回精査していくことが必要だと感じました。また、理想的なクラスの規模や数、学校規模など、その辺りをどう捉えていくのかも問われていると感じました。各地域に小学校3校を残していく視点で見た時には、それぞれの特色が出て然るべきだと思います。規模が大きい良さのある学校、または少人数学級の良さを際立たせた学校等のように特色を作って、学校選択制によりどこでも特色のある教育が受けられるという施策を目指していくのも、一つの重要な選択肢なのかなと感じました。学校選択制はむしろ賛成の方ですが、それによる弊害をどうリカバーしていくかもしっかり考えていくべきなのかなと感じたことです。

- （教育長） ありがとうございます。6年間同じクラスである人間関係への弊害もあると思いますが、小規模の良いところをメリットに出すということについても検討しても良いのではないかというご意見を伺いました。まだまだ先生目線、子ども目線で検討することはたくさんあると思いますけれども、今後ともご意見いただければと思います。

これから校長会や教頭会等でご意見を伺って、良い方法を検討させていただければと思います。校長会や教頭会等の結果につきましては、次回の定例会で報告させていただこうと思います。たくさんのご意見ありがとうございました。また、一色小学校の6年生のことや中学校の実態についてはもう少し丁寧に精査して、次回報告させていただければと思います。ありがとうございました。

（4）その他

－ 次回教育委員会予定 －

（教育総務班長） 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

10時50分 閉会